

イベントが延期・中止になる場合があります。事前に電話やホームページなどでご確認ください。

あっちゅーhYO GO!!

六甲山系チョウ 魅力知って 神戸

身近なチョウや里山の現状を紹介する「みんな知っとう?チョウのあれこれ2025」(神戸県民センター主催)が、12日から神戸市灘区の県立六甲山ビジターセンターで開かれる。9月3日まで。

六甲山系のチョウの魅力を知ってもらおうと、19年から毎年テーマを変えて開催している。

今回は、「チョウから見たい、ま里山で起きている危機的状況」と題して企画。環境省などが05〜22年度に実施した全国の里地調査と県内の調査地の状況をパネルで展示する。

国内のチョウ類は、里山の急激な変化に伴い身近な103種のうち34種の個体数が減少。県内で調査した県立三木山森林公



「身近なチョウや里山の現状を知って」と話す橋本さん

園(三木市)と高塚山周辺(神戸市)では、市民ボランティアらの環境整備活動によって個体数は増えたが、南方系が多く、地球温暖化の影響も考えられるという。

会場には、六甲山系にいるチョウの全標本(約80種)を展示。好きなチョウを選ぶ人気投票や成虫幼虫の間違い探しなどのコーナーも設ける。19日にはイベント「チョウやイモムシのひみつを知らう」が開かれる。

企画した環境省登録環境力カウンセラーの橋本敏明さん(73)は「チョウは環境のバロメーターともいわれている。里山の生きものを守る必要性を考えてもらえれば」と話している。問い合わせは同県民センター(078・647・9094)。